

令和4年11月3日

筑紫野市議会
議長 高原 良視 様

総務市民常任委員会
委員長 波多江 祐介

総務市民常任委員会 視察報告書

総務市民常任委員会で視察を行いましたので、以下の通り報告いたします。
記

1、視察日程

令和4年10月11日（火）

2、視察先

松末地域コミュニティ協議会

会場：松末小学校体育館（2018年3月31日閉校）及び災害復旧現場

3、調査項目

①2017年九州北部豪雨災害の防災及び復旧について

②災害に対応するコミュニティの活動について

③被災、復興の状況視察

以上

4、視察者

委員会

波多江祐介 八尋一男 横尾秋洋 辻本美恵子 鹿島康生

坂口勝彦 段下季一郎

随行職員

議会事務局 大久保泰輔 松崎直子

執行部（コミュニティ推進） 谷昌義

5、内容（別紙）

■講話 松末地域コミュニティ協議会前（災害当事）会長 伊藤睦人 様

1、松末地域の概要

朝倉市東部に位置し、東峰村と隣接した場所で、地形的には谷底の平地である。河川は、乙石川、赤谷川、小河内川が流れています。主要な道路は、県道52号線（県道八女香春線）が通っています。人口などは11集落、750人、250世帯で高齢化率は39%です。

朝倉市の公的施設は以下の状況です。

- ①朝倉市立松末小学校 H30年3月閉校
- ②朝倉市立松末保育園 安全が確保できず休止中
- ③朝倉森林組合杷木支所 安全が確保できず休止中
- ④松末簡易郵便局

地域振興の取り組みとして、有志による「松末を考える会」やそば栽培を中心とした地域起こしに取り組んでいる。

2、平成29年7月豪雨災害の状況

(1) 平成24年7月九州北部豪雨災害状況

- ・松末小学校雨量計 79mm/時間 3時間 累加雨量209mm
- ・人的被害なし・山腹崩壊・護岸流失・道路寸断
- ・田畑流失、土砂堆積 ・家屋損壊 ・集落の孤立（最大14日間）

※一生の内、1回あるかないかの災害を経験した。

(2) 松末地域自主防災会の立ち上げ

- 防災マップの作成（集落会議の実施）
 - ・自主避難場所（1次避難）の設定（個人宅、集落公民館）
- 松末地域自主防災計画書の作成
 - ・各集落（行政区）は防災班
 - ・災害発生時の指揮体制の確認
 - ・集落単位による要支援者、支援者の確認
- Jアラートを利用した連絡体制の確認
- 避難訓練、応急処置などの実施。訓練を日常生活の中に取り入れる（応急担架リレー、避難時に於ける炊き出しなど）

(3) 平成29年7月九州北部豪雨の状況

- ・朝倉市の平年の7月月間雨量354.1mm
- ・当日の雨量は、黒川地区9時間（12時～21時）775mm
- ・気象庁観測史上最大記録
- ・松末小学校 短時間137mm 累加雨量421mm以降欠測
降水量：局地化、集中化、激甚化 「線状降水帯」
流出土砂：筑後川右岸流域1, 100万m³ 流木：21万m³

(4) 災害発生 の 把握状況

- ・ 猛烈な雨 ・ 河川の濁流が道路にあふれている ・ 濁流が橋を越す
- ・ 真っ黒な水が流れる ・ 道路が通れない ・ 田の畔から水が超える
- ・ 家屋内に浸水 ・ 住宅に濁流が入る ・ 巨石が流れる ・ 一面濁流
- ・ 納屋、住宅が流される ・ 川の水が一時的に少なくなった

日本の山間地に於ける最初で最大の被害

7月5日

【気象情報】

【朝倉市の対策】

4:11 雷注意報

9:32 大雨、洪水注意報

13:14 大雨洪水警報

14:10 土砂災害警戒情報

14:10 災害警戒本部設置

14:15 避難準備・高齢者避難開始命令
避難所開設

14:26 災害対策本部第1配備
避難勧告(全域)

15:30 避難指示(一部地域)

16:20 避難指示(松末)

避難所開設(松末小学校)

17:51 大雨特別警報

○避難の状況

- ・ 事前の避難はわずかだった ・ 防災行政無線(聞こえない)
- ・ 地域放送の中村局 14:08 発信停止
- ・ 行政の情報の遅れ ・ 道路は濁流で通行できない
- ・ 多くの方が家にとどまり、2階や屋根裏に移動
- ・ 隣家から隣家へ避難 ・ 裏山や隣村に避難 など
- ・ 平成24年災害時の体験が避難行動の判断に影響したのでは?

3、復旧・復興に向けての対応

○災害後の状況

- ・ 分散化した避難所・・・杷木地区2ヶ所 甘木地区2ヶ所
- ・ 住宅提供情報遅れ・・・知人、親戚宅、近隣市町村の公営住宅

↓

みなし仮設、仮設住宅、自力避難

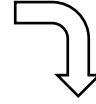
- ・ 生活インフラ寸断

※現在 松末地域での住居者40%を割る

地域コミュニティの崩壊

○復興に対する思い

- ・原形復旧ではどうにもならない ⇒ 改良復旧
- ・権限代行・直轄事業による工事
- ・情報不足 積極的な情報提供を
- ・所管の違いによる住民の戸惑い
- ・選択肢のない関係機関の提案
- ・方向性を示した行政からの提案がない



住民主催の説明会、学習会の開催

※復興に向けた応急工事などの進捗状況の説明

集落単位での学習会⇒地区協議会⇒市復興計画策定委員会
農地再生に向けた学習会（危険と思う、谷、沢、などリスト化）
⇒関係機関合同での現地確認⇒計画に反映

4、防災、減災に向けて自分たちにできること

○発生する災害は「自然災害」「人的災害」など多種多様である
更に、地域によって災害の形態は変わる

○対策

- ・ハード対策・・・構造物等による被害軽減（堤防、ダム、耐震強化等）
 - ・ソフト対策・・・構造物によらない被害軽減（マップ、自主防災会等）
- ※経験や体験をすればよく分かるが、それでは遅い。

○広範な災害では公助には頼れない⇒「自分の命は自分で守る」
防災組織は機能しないが、基本は防災組織の取り組みにある。

○普段からの準備

- ・いろいろな災害に対する対策 ・行き先、連絡先、危険箇所の把握
- ・避難用品の準備（備蓄品、非常持ち出し品）
- ・情報の収集（テレビ、ラジオ、防災メール、気象庁など）

○避難行動について

- ・個人の適切な判断力 ・早目の行動、避難
- ・安全で動きやすい服装 ・近隣での声かけ（要支援者）

5、災害を経験して今思うこと・・・

- ・行政との復興に向けた協働の取り組み
- ・ハード面は大切だが過信してはならないし限界がある
- ・共助（自助）の大切さや普段からの近所付き合い
- ・意識の改革と日常生活を通しての取り組み

※準備に上限はない！空振りには良かったこと！

6、質問事項

Q：要支援者を地域でどのように支援する体制をとっているのか？

A：自治活動の中で要支援者の確認、情報共有化を行い、役割の中に福祉委員を設置していた。また、防災計画の中で防災個人カードを作成し毎年更新している。(区長、コミュニティに保持)

朝倉市では「お助けキッド」(基本的に65歳以上)を本人の申請で、介護サービス課など関係機関や、消防署へも情報の提供を行い、現在の登録者は約1,400名の登録。

Q：災害時、地域自主防災組織と消防団の活動はどのように連携しているのか？

A：第1分団については、災害時朝倉市災害本部の指揮下にいるので、自主防災組織からは除外している。但し、自主防災会と分団は、綿密な関係であり活動を共にするので組織図は破線で入れている。(情報の共有)

7、現地視察などで聞いた内容

赤谷川や崩谷(くえんたに)の視察。昔からの地名、大字、小字には、歴史的なその土地の由来が残っていることが多いとのことでした。それは後世に危険や避難を伝えるための知恵かもしれません。

復旧工事には国土交通省や農林水産省など、国が直轄で対応に当たっているがこの直轄工事は全国で初となり、間もなく期限を迎える。今後は福岡県を中心に事業を引き継ぎ鋭意進められるとのことでしたが、想像以上に進んでいないのが実感で、5mも土砂が堆積し地形も分からない災害現場を目の当たりにすると、改めて自然災害の恐怖を感じます。

8、視察のまとめ

当初は平成29年の豪雨災害についてお話をお伺いする予定でしたが、現地に伺い最初に言われたのが、平成24年の豪雨災害でした。既に大きな豪雨を経験し、その後にソフト面の対応や対策を地域で取組まれていました。一方、幸いに当時は人的被害が無かったのだが、逆にその体験が今回の避難の判断に影響が出たのも事実と話されていました。また、災害後は多くの方が地域を離れて、過疎化や高齢化に更に拍車をかけているのも事実で、残るものでどのようにコミュニティを構築するのか、農地についても復旧して誰が耕作をおこなうのか、課題は山積とのことでした。広域や大規模災害では公助の限界で、日頃からの顔の見える近隣との関係性が命に繋がるとの話には現在の社会課題も照らし合わせると、小さな単位での取り組みが急務であると感じました。

9、視察写真

